

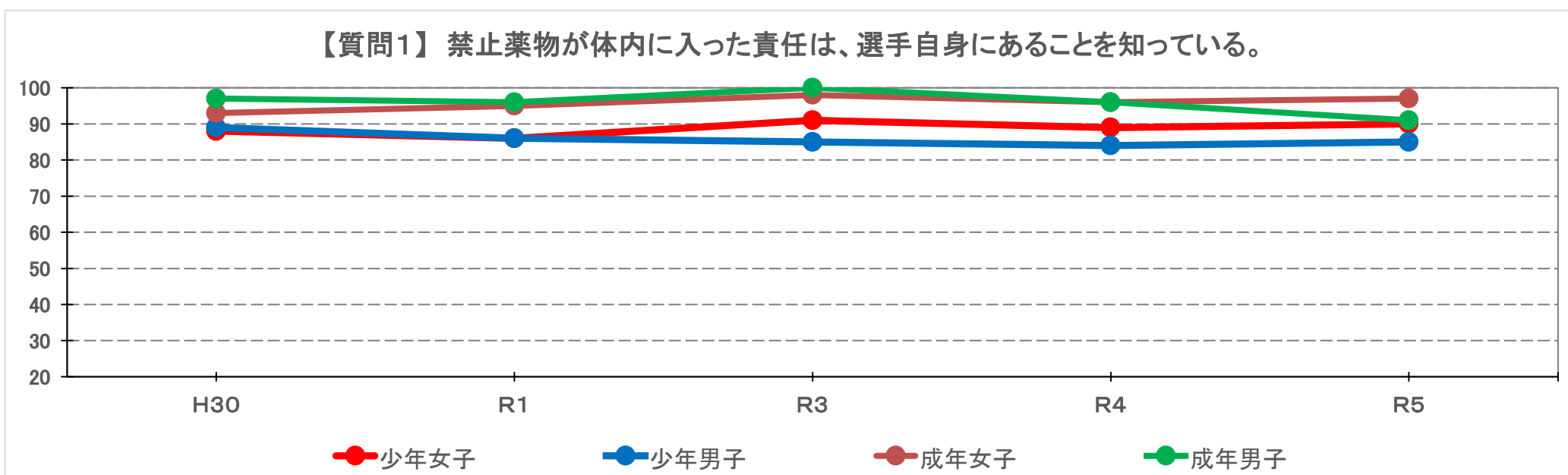
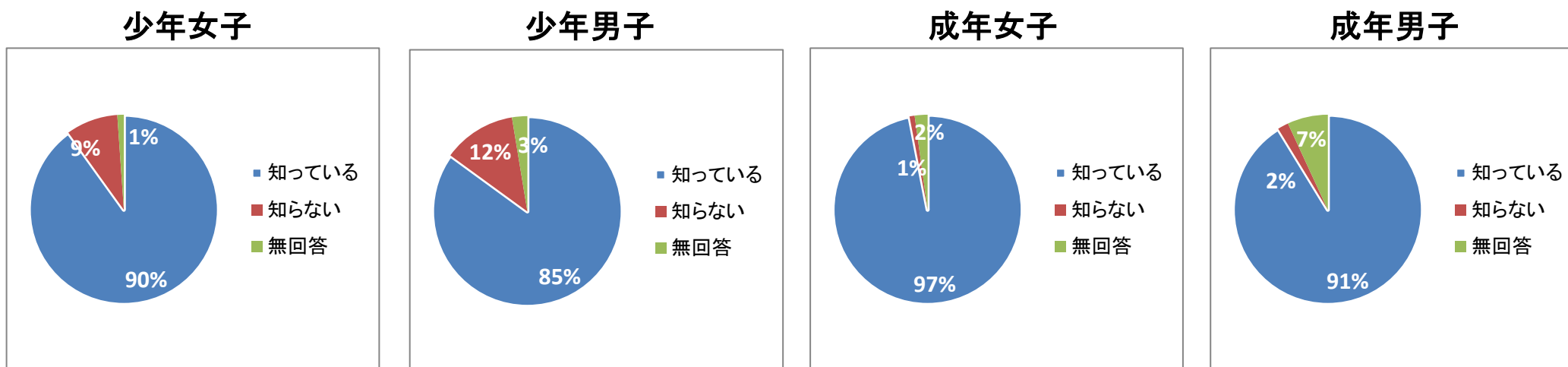
プロジェクト研究 : 『国体ドーピング・コントロール』に関するアンケート集計

知識・認知度に関する設問(7項目)と、知識に基づいた行動に関する設問(2項目)、意欲・不安感に関する設問(1項目)を実施した。

1 禁止物質が体内に入った責任は、選手自身にあることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	245	295	222	344	1,106
知らない	24	43	2	7	76
無回答	3	9	5	26	43
計	272	347	229	377	1,225

ドーピングの責任が選手自身にあることを、成年種別・少年種別とも約9割の選手が理解している。両種別ともにドーピング・コントロールに対する関心は少しずつ深まっている。引き続きアンチ・ドーピング教育を推進していく必要がある。

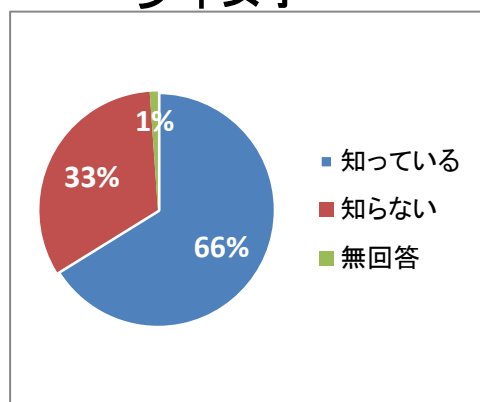


2 ドーピング防止規則は、禁止物質だけでなく禁止方法についても規定されていることを知っていますか。

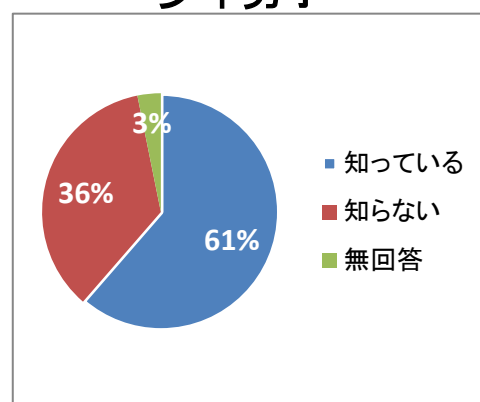
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	180	213	206	327	926
知らない	89	123	17	24	253
無回答	3	11	6	26	46
総計	272	347	229	377	1,225

少年種別においては、例年、禁止方法についても規定されていることを「知らない」割合が多い。成年・少年種別とも近年の違反事例を参考にしながら、ドーピング・コントロールについて基本的な事項から体系的に学ぶ機会が必要である。

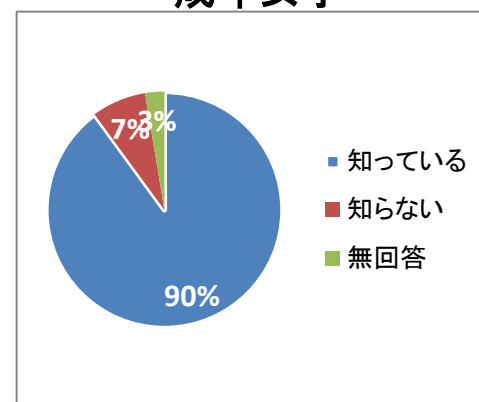
少年女子



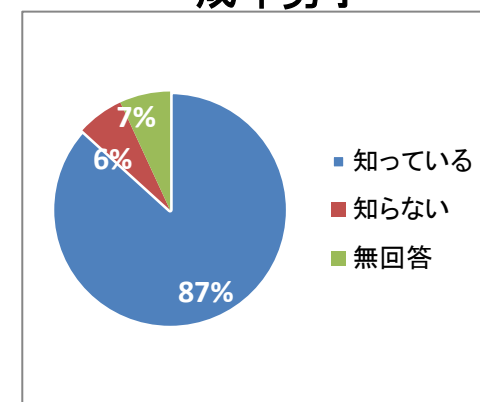
少年男子



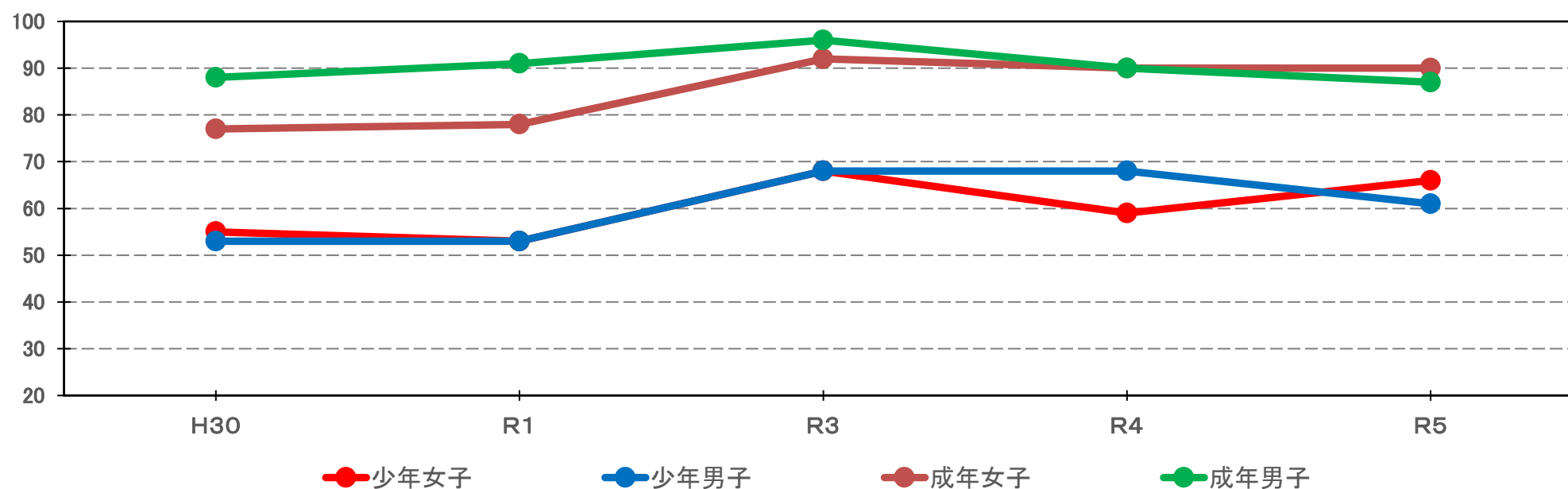
成年女子



成年男子



【質問2】ドーピング防止規則は、禁止物質だけでなく禁止方法についても規定されていることを知っている。

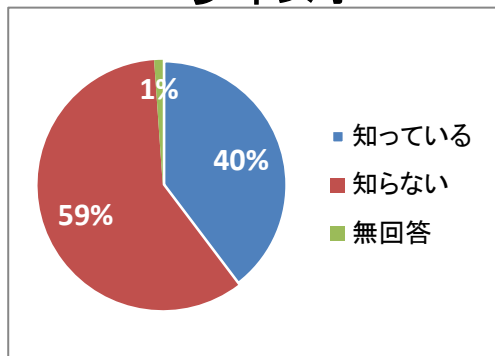


3 禁止物質が、毎年変わることを知っていますか。

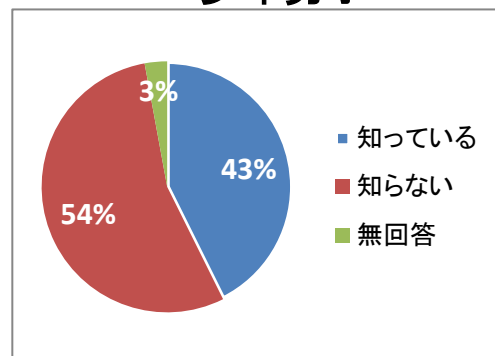
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	108	148	181	307	744
知らない	161	189	43	43	436
無回答	3	10	5	27	45
総計	272	347	229	377	1,225

禁止物質が毎年変わることを、少年種別では半数以上、成年種別でも「知らない」と回答している選手が多い結果となった。講習会等を通して、基本的事項を学び、毎年1回更新されている「禁止表国際基準」で確認していく必要がある。最新の情報についても、適切に伝達していく必要がある。

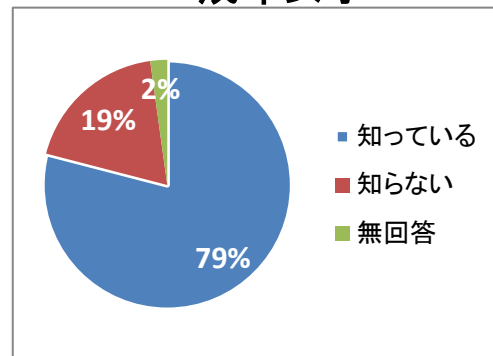
少年女子



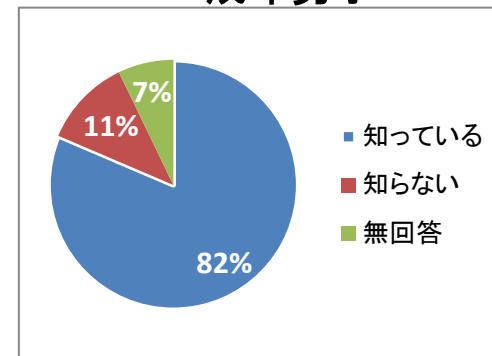
少年男子



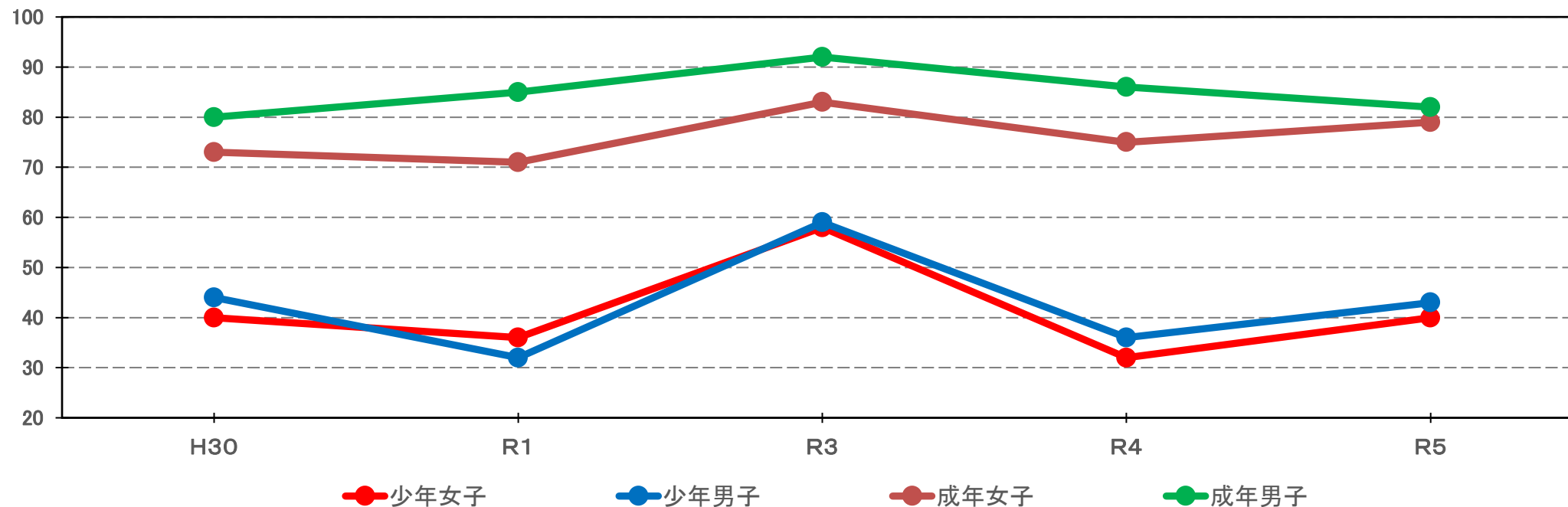
成年女子



成年男子



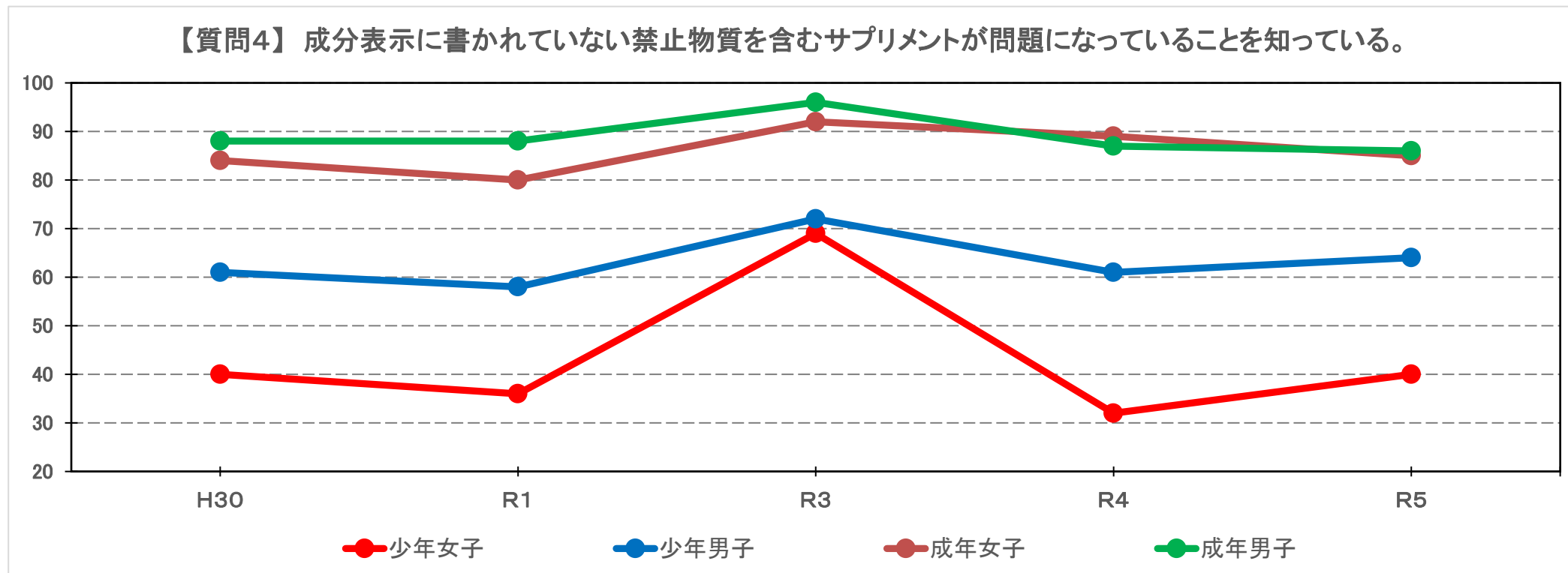
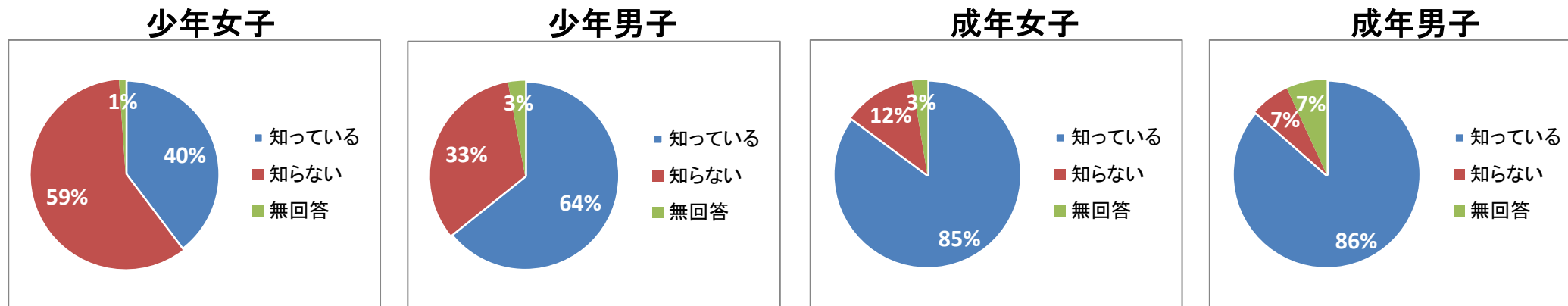
【質問3】 禁止物質が、毎年変わることを知っている。



4 成分表示に書かれていない禁止物質を含むサプリメントが、よく問題になっていることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	162	223	195	326	906
知らない	106	114	28	25	273
無回答	4	10	6	26	46
総計	272	347	229	377	1,225

現在、禁止薬物を含む海外製のサプリメントには、成分が書かれていない物が多い。また、国内でも簡単に購入できる状況である。まずは、選手自身がドーピングの知識に加えて食事の重要性を理解し、安易にサプリメントに頼らない食生活習慣を身に付けていくことが大切である。

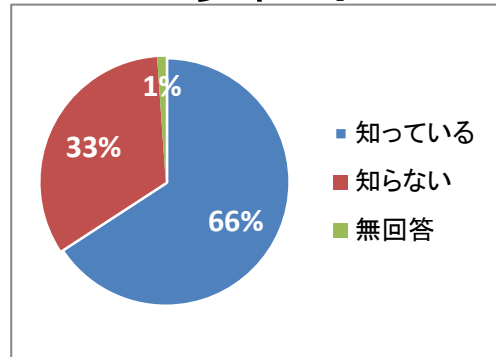


5 風邪薬や胃腸薬などの市販薬に、禁止物質が含まれていることを知っていますか。

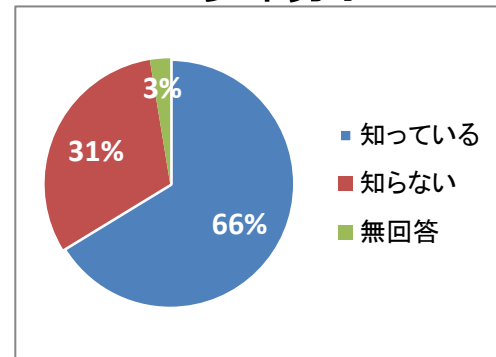
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	179	230	205	334	948
知らない	90	108	18	18	234
無回答	3	9	6	25	43
計	272	347	229	377	1,225

少年種別の選手は、市販薬の購入や利用時のリスクを知らない。市販薬の中には、禁止物質が含まれているものもあれば、含まれていないものもある。薬剤師会ドーピング防止ホットラインや薬の検索サイト「Global DRO JAPAN」の活用しながら知識を身に付ける必要がある、また、公認スポーツファーマシストの存在を選手・監督により広く周知し、薬に関して気軽に相談できる環境を整えていく必要がある。

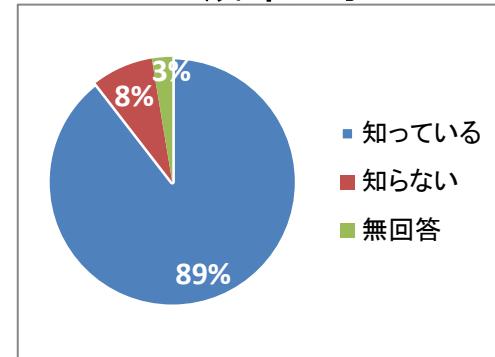
少年女子



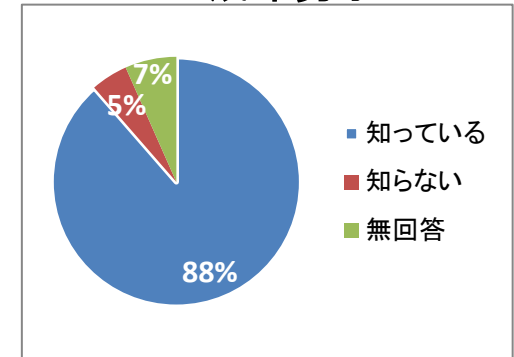
少年男子



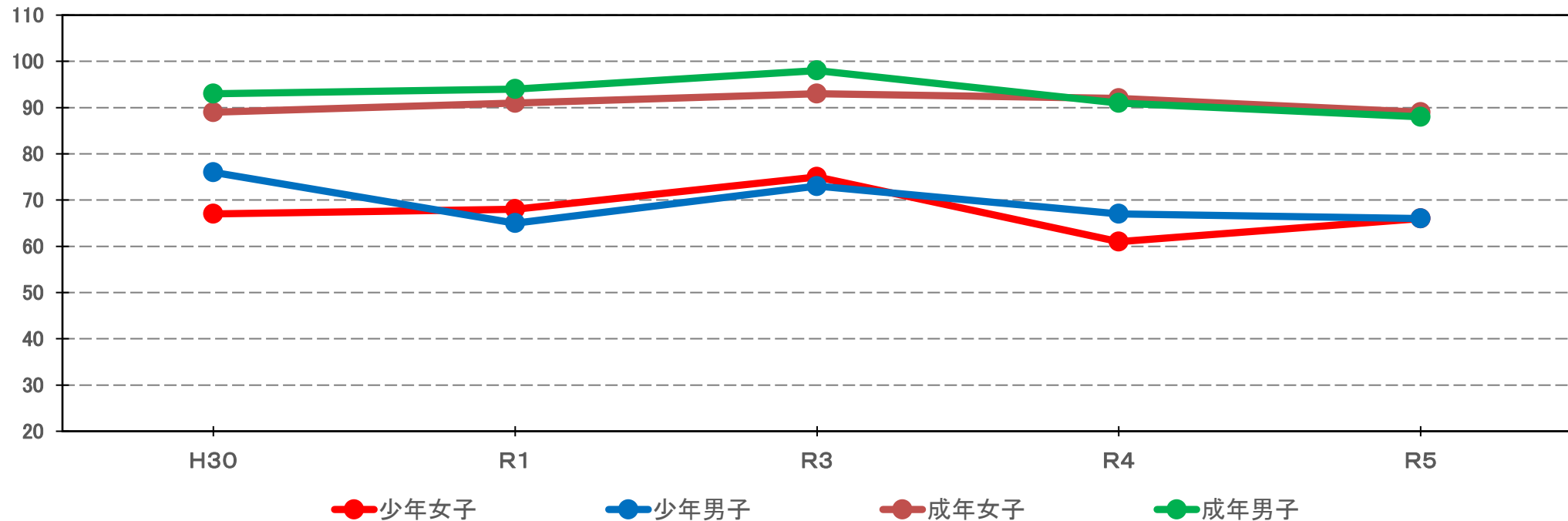
成年女子



成年男子



【質問5】 風邪薬や胃腸薬などの市販薬に、禁止物質が含まれていることを知っている。

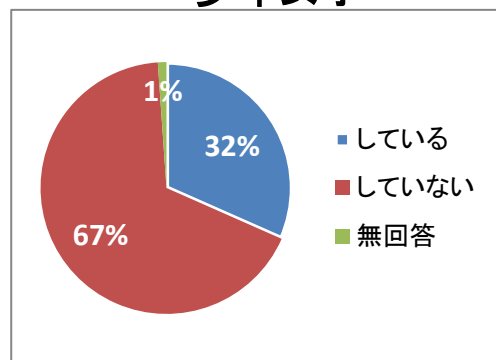


6 治療を受ける際、自分がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であることを、主治医へ伝えていきますか。

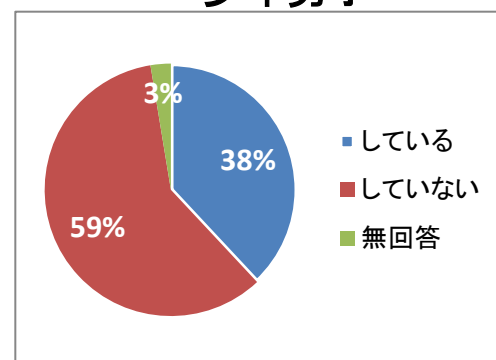
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	86	132	169	272	659
していない	183	206	55	80	524
無回答	3	9	5	25	42
計	272	347	229	377	1,225

少年種別は半数以上、成年種別は約2割の選手が「伝えていない」を回答している。医療機関等を受診する際は、競技会に臨む競技者として、選手自身が責任をもって、自分の立場や責務を医師に伝える必要がある。また、少年種別においては、保護者やチームの監督・コーチに付き添ってもらうことも、時には必要である。

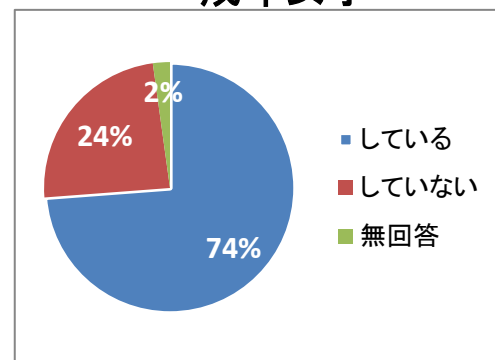
少年女子



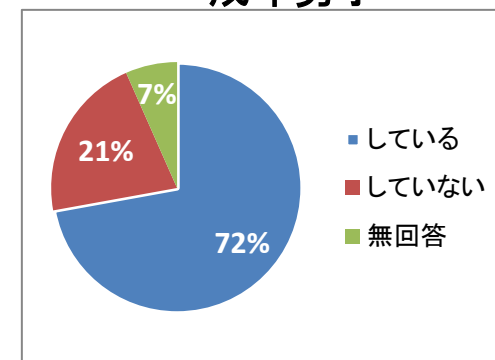
少年男子



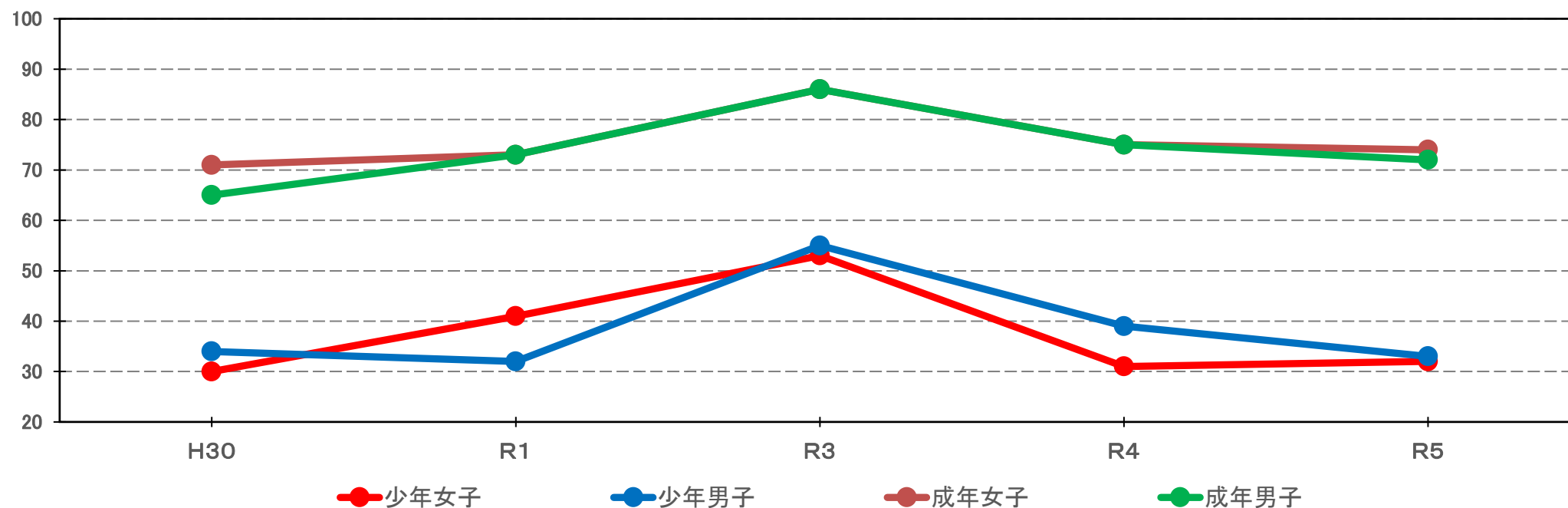
成年女子



成年男子



【質問6】 治療を受ける際、自分がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であることを、主治医へ伝えている。

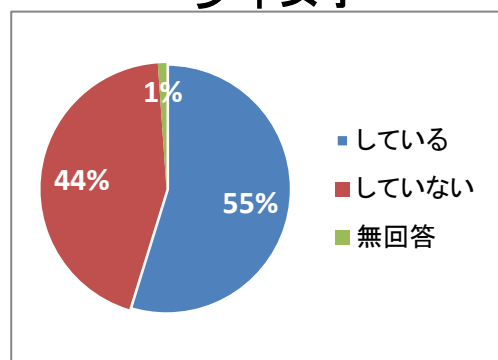


7 治療に使った薬は、記録に残していますか。

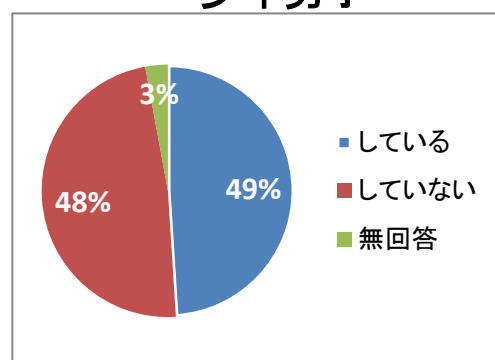
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	149	170	156	225	700
していない	120	167	68	127	482
無回答	3	10	5	25	43
計	272	347	229	377	1,225

医薬品のリスクを回避するための行動に関する設問である。成年種別は3人に1人、少年種別は約半数の選手が「記録に残していない」と回答している。医薬品であっても、選手が自分の体に入れるものに対しては常に責任をもち、いつでも使用した薬の確認ができるようにしておく必要がある。競技力の向上を目指した栄養管理としての記録も大切だと考える。

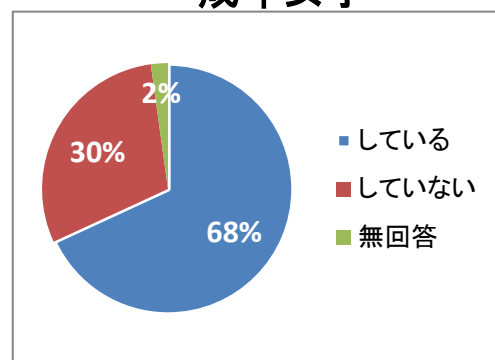
少年女子



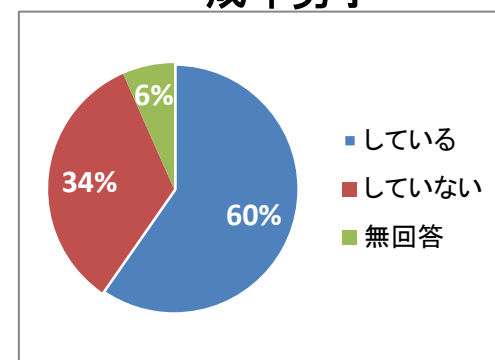
少年男子



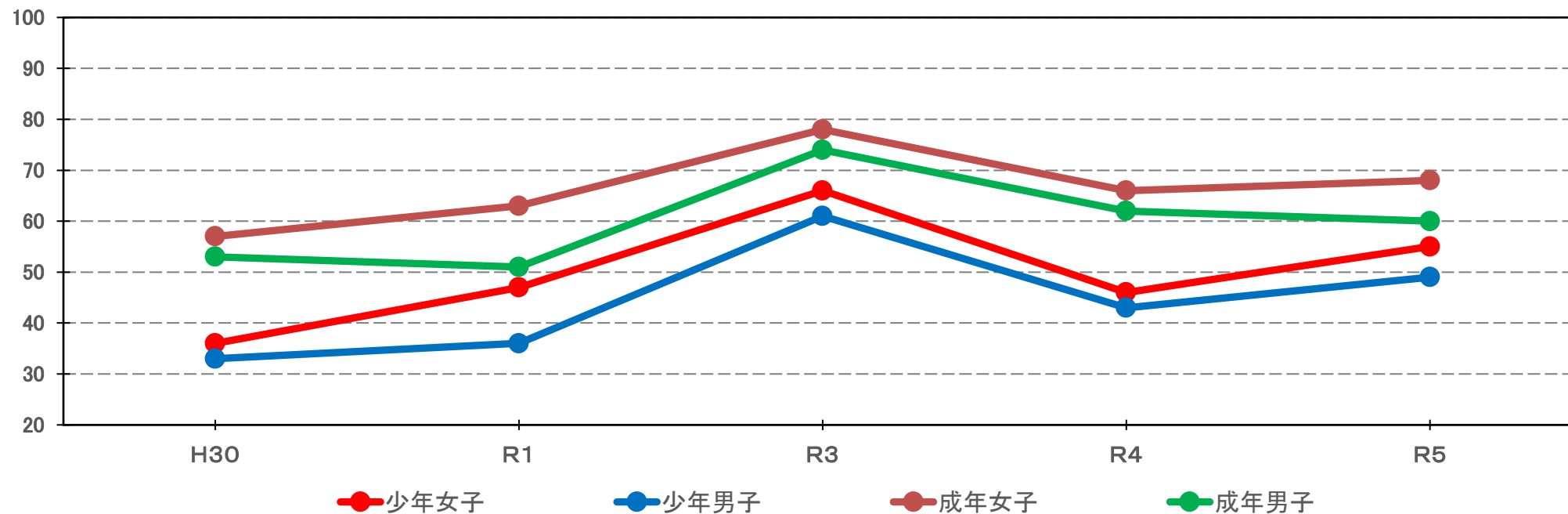
成年女子



成年男子



【質問7】 治療に使った薬は、記録に残している。

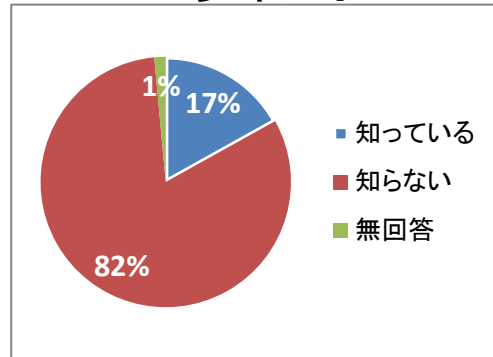


8 TUE申請とは何か知っていますか。

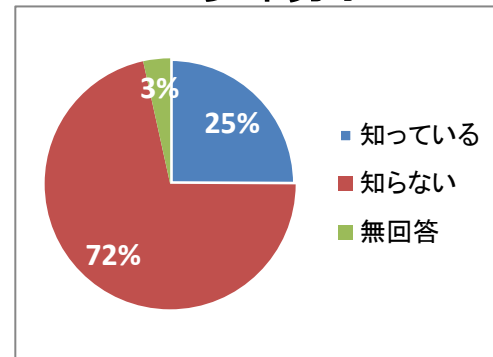
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	46	87	117	212	462
知らない	222	248	107	140	717
無回答	4	12	5	25	46
計	272	347	229	377	1,225

少年種別で7割～8割、成年種別で約半数の選手がTUE(治療使用特例)申請について「知らない」と回答している。TUE申請が必要となる選手が少ないことも考えられるが、緊急を要する場合も含め、治療上、禁止物質を使用する必要のある選手が、TUEの知識がないことで競技の機会を潰すことのないよう、指導者も含め正しい知識を広く浸透させていく必要がある。

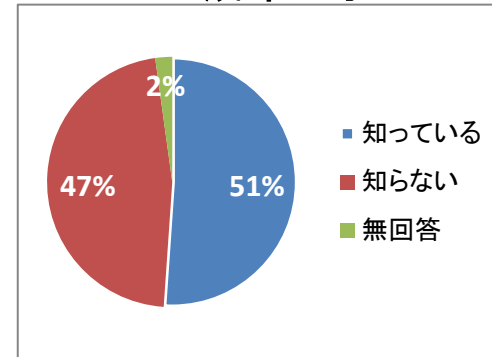
少年女子



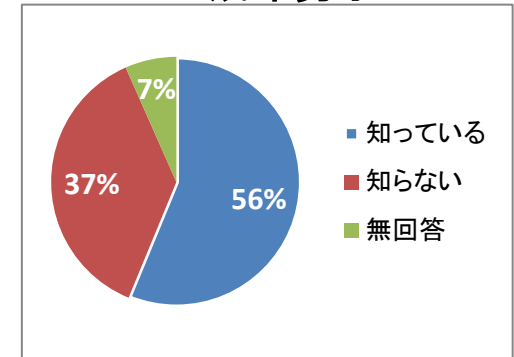
少年男子



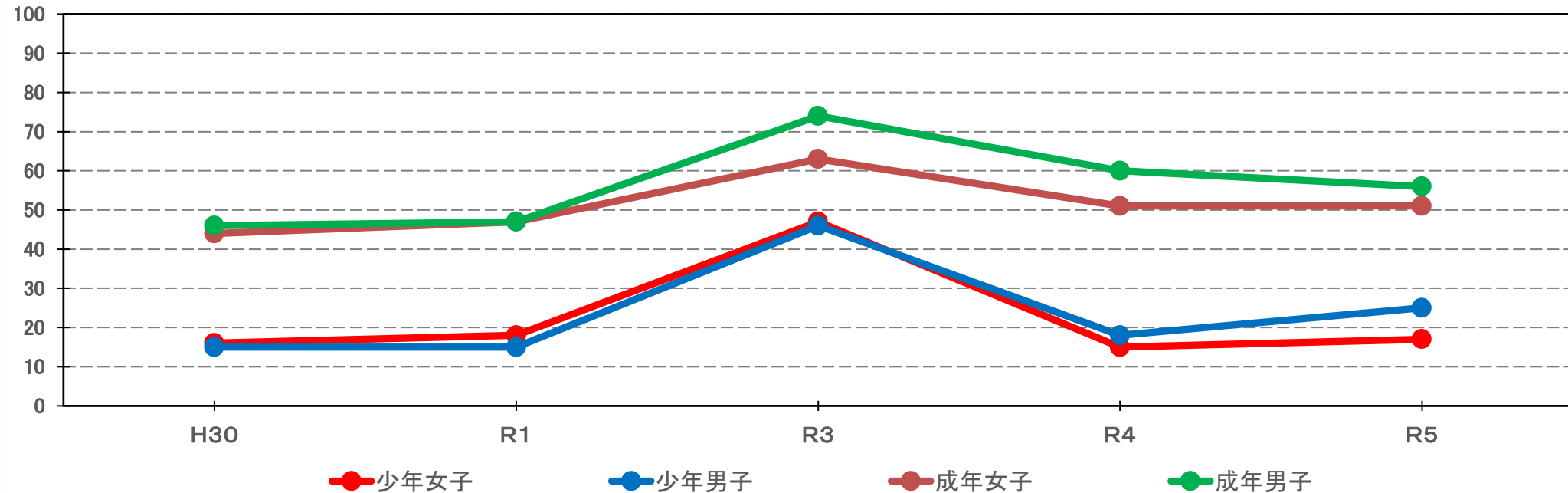
成年女子



成年男子



【質問8】 TUE申請を知っている。

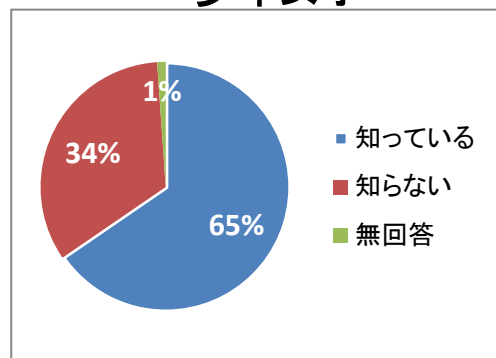


9 ドーピング検査対象の通告を受けて検査を拒否する行為は、罰せられることを知っていますか。

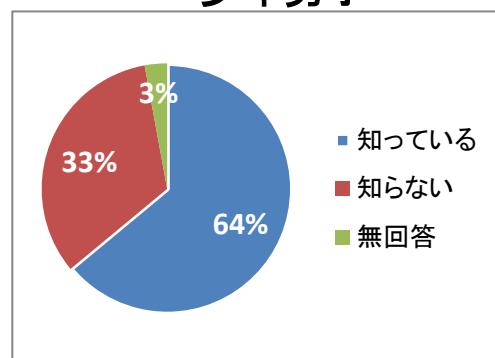
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	178	222	197	317	914
知らない	91	115	27	35	268
無回答	3	10	5	25	43
計	272	347	229	377	1,225

ドーピング検査の実際の手順や競技会検査・競技会外検査などの基本的な事柄を理解する必要がある。国際大会に出場する機会が増える成年種別においては、RTP(検査対象者登録リスト)や居場所情報提出等の仕組みについても理解を深めていく必要がある。

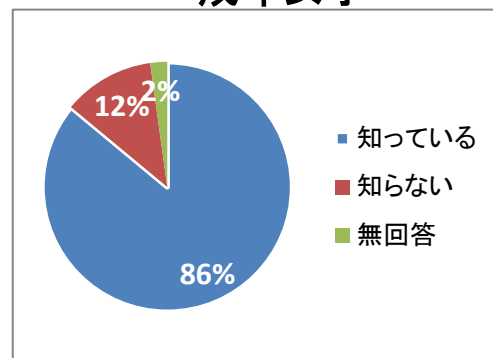
少年女子



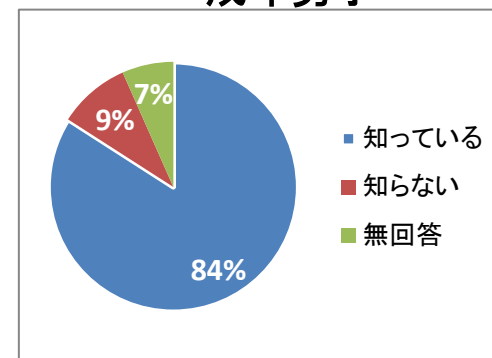
少年男子



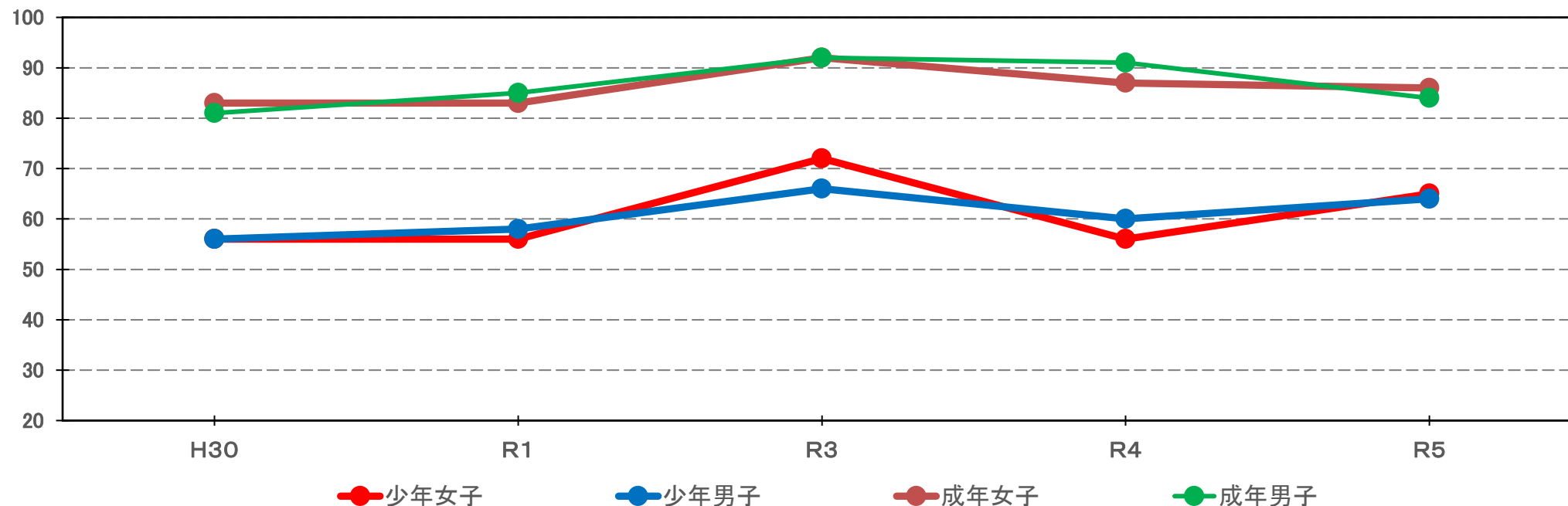
成年女子



成年男子



【質問9】 ドーピング検査対象の通告を受けて検査を拒否する行為は、罰せられることを知っている。

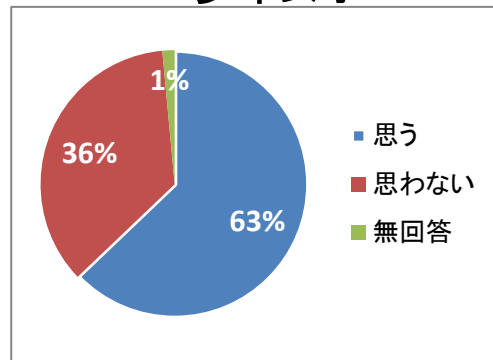


10 あなたはドーピング講習会を受けたいと思いますか。

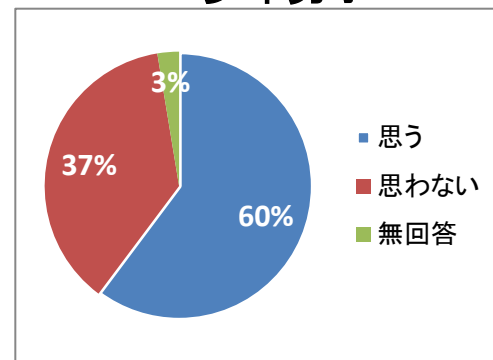
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
思う	171	209	166	244	790
思わない	97	129	58	108	392
無回答	4	9	5	25	43
計	272	347	229	377	1,225

今年度より、アンチ・ドーピング教育が義務化となった。本委員会が開催する講習会の持ち方を工夫する等、競技団体と連携（競技団体独自の取り組み）を図り、より多くの講習機会を提供し、アンチ・ドーピング教育活動へ積極的に参加してもらおう。また、スポーツファーマシストとも連携し、正しい知識の浸透を図りたい。

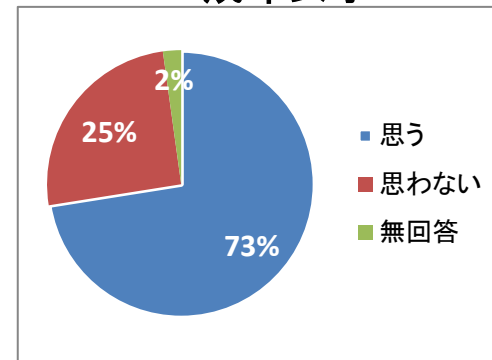
少年女子



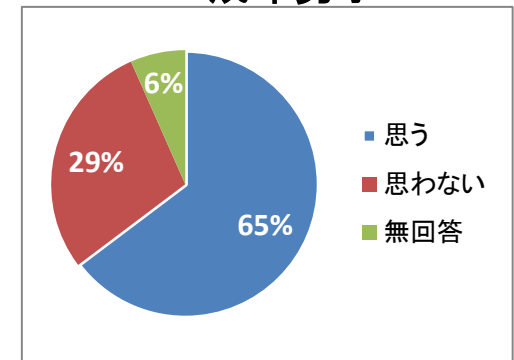
少年男子



成年女子



成年男子



【質問10】ドーピング講習を受けたいと思う。

